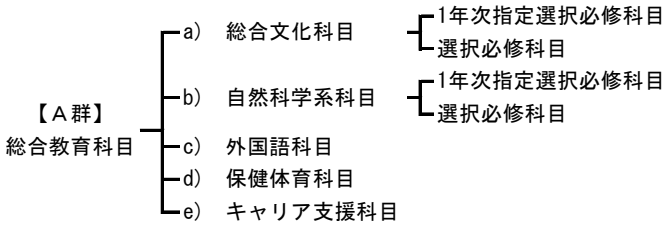
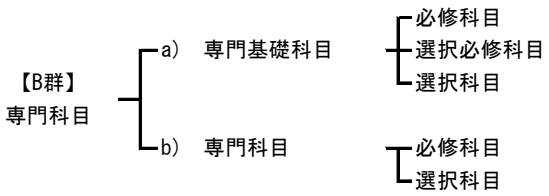
≪2023 年度入学生用≫

建築学部

授業科目履修課程表

◆教育課程◆





建築学部で何を学ぶか

建築学部は，学生諸君が人間と社会，科学技術を多様な視点から捉える目を養うために，工学をはじめとして，人文科学，社会科学や芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育を実施している。そして，実践的かつ総合的な教育により，学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し，伸ばすことで，建築と都市環境の創造・再生，および，持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に担う専門家を養成する。建築学部は，そのための素養を十分に身につける教育プログラムを準備している。

また，新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し，学生が今後求められる専門家となるためには，現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となる。そのため，建築学部は，学生が実験・実習・演習などによる課題解決の経験を通じ，これらの素養を十分に養えるよう図っている。さらに，実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることを重視し，学生にインターンシップによるものづくりの現場への参加機会や，実社会で活躍している講師による特別講義の受講機会などを設けている。学生は，それにより,広範な知識を身につけ，社会において果たすべき建築の専門家としての役割を理解することができるようになるだろう。

建築学部は，まちづくり学科，建築学科，建築デザイン学科による３学科体制により運営されている。

まちづくり学科では，地球規模の大きな社会状況の変化のもとで，これから我々がより快適に住み続けられるための「まち」の新しい姿について学生自身が考え，身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を獲得する。多角的な「まち」の将来像を構想し，実現する素養を身につけて，持続型社会を支える科学技術の発展に寄与する方法を修得する。

建築学科では，安全で快適な生活の場の構築を目的として，大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく，安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。学生は，これからの新しい建築のあり方を規定する高度な要素技術（計画，構造，設備，生産）を身につけ，持続型社会を支える科学技術の発展に寄与する方法を修得する。

建築デザイン学科では，単に美しいだけではなく，機能的に優れ，快適で使いやすい，人間のための建築デザインについて学生自身が考え，新しいデザインのあり方を創造・発信することを目指す。さらに，環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上を考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけて，持続型社会を支える科学技術の発展に寄与する方法を修得する。

このように，学生が，まちづくり学科，建築学科，建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて，卒業後に，新時代の課題を適切に判断し，身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネートやマネジメントなどの役割）を担う仕事に就くことを，建築学部は目指している。活躍する分野としては，建築の基本分野となる建築設計，建築施工全般などに加えて，資源や環境の保全，持続可能なまちづくりや都市再生，防災，高齢社会に対応した生活環境づくりなど，いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野を想定している。

さらに，本学大学院進学により，多様な研究分野が同じ学部の中に共存するメリットを最大限に活かしながら，学生自身が複合的な新しい着想に基づく研究領域の創造を積極的に進めることを期待している。こうして，学生は新しい得意分野の位置づけを確立しながら，専門性を高めることを目指せるだろう。

≪2023年度入学生用≫

建築学部

各　学　科　共　通

【Ａ群】
総 合 教 育 科 目
- a）総合文化科目
- b）自然科学系科目
- c）外 国 語 科 目
- d）保健体育科目
- e）キャリア支援科目

【Ａ群】総 合 教 育 科 目

a）総合文化科目

本学は工科系大学であるが，工学も，すべての学問と同じく，それだけで独立したものではなく，他のさまざまな学問や，歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立っている。とりわけ今日では，科学技術や産業のあり方について，さまざまな角度からの再検討，再評価がおこなわれ，全人類的な視野に立つ新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は，狭義の専門分野だけでなく，できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。幅広い知識，多様な関心，柔軟な感性こそが，専門領域での真に創造的な仕事や，現実社会での的確な判断力，責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は，このような意味で専門教育を根底から支え，研究者として，技術者として，社会人として，豊かな可能性と創造性をもつ人間の形成に役立つことを目指して開設される。まず１年次の「工学院大スタディーズ」「建築ロジカルライティングⅠ」「建築ロジカルライティングⅡ」では，大学生としての主体的な学びを実践するために必要不可欠な力を身につけ，将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立を図る。また，「美術 A」「美術 B」では，建築を学ぶために必要なデッサン力，イメージ表現力を理論と実技の両面から身につける。さらに２年次以降，いわゆる人文科学，社会科学を中心として，広大な「知」の世界の入口として集められた科目群から，自らの意志で科目を選択し，学びを深めてゆく。

b）自然科学系科目

現代の科学技術は，自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには，自然科学との関係を十分に知ることが重要であり，その自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養科の教員が責任を持って教育にあたる。

微分積分，物理学，化学，生物学は，どの分野に進む人にも重要な基礎知識であり，これらについて広い視野を持つことは，各人が独自の道を切り開く上で大きな力になる。単に道具として理解するのではなく，自然現象をどのように捉え，表現しようとしているのか，また結果としてどんな描像を得ているかを理解する姿勢が重要である。

また，現代を生き抜く上で不可欠なコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理入門」，「建築情報処理基礎」を修

得し，さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

c) 外国語科目

建築学部では，国際化時代に対応し，幅のあるコミュニケーション技能を養うために，体系的かつ柔軟性を持たせた外国語教育のカリキュラムを編成している。

具体的には，卒業に必要な外国語科目８単位のうち６単位を必修の英語科目で取得し，残り２単位は選択必修の外国語科目から取得する。

必修の英語科目は，グローバル社会で活躍するための総合的な力を養うべく言語諸技能の有機的な教育を目指しており，１，２年次に受講する３つの必修英語科目では次のようなことに重点が置かれている。「Basic English Ⅰ/Ⅱ」（１年次）では，英語でたくさんのinputを得る活動（主にreading）を通して，コミュニケーションの基礎となる語彙・文法・構文の習得を目指す。「Basic Communication Ⅰ/Ⅱ」（１年次）は自分の意見を英語で論理的に伝えることができるようになるためのoutput活動（パラグラフライティング）を通して，総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている。「Basic Academic English Ⅰ/Ⅱ」（２年次）では，現代社会における諸問題についてinputを得る活動を行うとともに，それぞれの問題に対して自分の意見を英語で論理的に伝えることができるようになるためのoutput活動（エッセイライティング）を通して，受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

選択必修科目に選択必修科目には，「応用英語」として「Introduction to English for Global Communication I/II」「English for Intercultural Communication A/B」や、夏期と春期にアメリカの提携大学の大学生との交流を行う「English for Global Communication A/B」を設置し，学生の積極的履修を求めているまた第二外国語として，「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」・「ロシア語」と，日本語を母国語としない学生のための「日本語」を設置している。

情報化時代の中で，外国語運用能力の重要性はますます高まっている。積極的な語学学習の場として欲しい。

d) 保健体育科目

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでの日常が大きく変化しているが、今こそ人間にとっての健康とはなにか、その健康を支える身体とこころの状態をどのように保つべきかを考える絶好の機会である。定期的に身体を動かすことは、健全な発育や心身の健康の保持増進に必要不可欠な行動である。また適度な運動は免疫力を強くし感染症にかかりにくい身体を作る。これからは、自らの生活に主体的に運動やスポーツを取り入れていく能力を身に付ける必要がある。

定期的な運動は、生活習慣病や筋肉、骨、関節といった運動器の障害を予防し、ストレスの軽減をもたらす。また、自己の内面を観察し、心身のバランスを整える能力を高める。さらに、運動を通して個における忍耐力やあきらめない心、グループにおける協調性や優しさを学ぶことにより、コミュニケーション能力を高め、活力あふれる社会人になることが期待できる。

そして、楽しく安全にスポーツを行う基本的知識（ウォームアップ、クールダウン、水分補給等）や健康管理（栄養、睡眠、飲酒等）について理解することは、これから始まる大学生活を有意義に送るための基盤となる。さらにスポーツや武道を、身体運動文化として学ぶことで、海外の人々とスポーツを通したコミュニケーションが可能となるであろう。

以上の意義において保健体育科目を設置するものである。（詳細は「保健体育科目履修の手引」を参照）

e) キャリア支援科目

大学で学んだことを社会で活かすためには，在学中から将来を見据え，自分自身の資質・能力を向上させることが大切である。２年次後期に受講する「キャリアデザイン」は，企業講演等を通して自らの職業観を醸成させると共に，社会と接する際に必要となる自己表現力等の能力を身につけることを目標としている。また，この科目は３年次開講科目の「学外研修」（インターンシップ）の導入科目としても位置づけられている。